

第6学年国語科学習指導案

平成22年11月29日(月) 5校時
6年2組 男子17人 女子13人 計30人
指導者

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
教材名 「平和のとりでを築く」(説明文)「自分の考えを発信しよう」—インターネットと学習—

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の児童は、これまでに説明的文章という点では、第6学年「生きものはつながりの中に」の学習で、文章構成や文末表現、重要語句などを手がかりに、筆者の考えをとらえ、それに対する自分の意見を持つ学習をしてきた。また、情報を集め発信する学習として、第5学年では「工夫して発信しよう」第6学年では「みんなで生きる町」で、調べたことを整理し、目的に応じて発信する力を身につけてつある。

そこで、ここでは、これまでの学習を生かしながら、筆者の事実と意見の述べ方の違いに気付くとともに、筆者の論理的な文章構成について分析し、自分の考えを明確にしながらか読むこと、様々な情報を集め、それをもとに自分なりの考えを深め、その考えを外部に発信することで表現能力を高めることをねらいとして本単元を設定した。

「平和のとりでを築く」をいう教材文を読み、筆者の訴えたいことについて読み取り、よりよい未来について調べたり、友達と話し合ったりすることで、自分の考えをもつことができる。また、情報を取捨選択し、表現方法を工夫しながら自分の考えを伝えることで「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習を総合的に進めることができる。さらに、自分の考えや課題について友達と情報交換をしたり、疑問点を話し合ったりすることで、友達と学び合う楽しさを感じ、自分の考えをよりよい考えへ高めることができる。

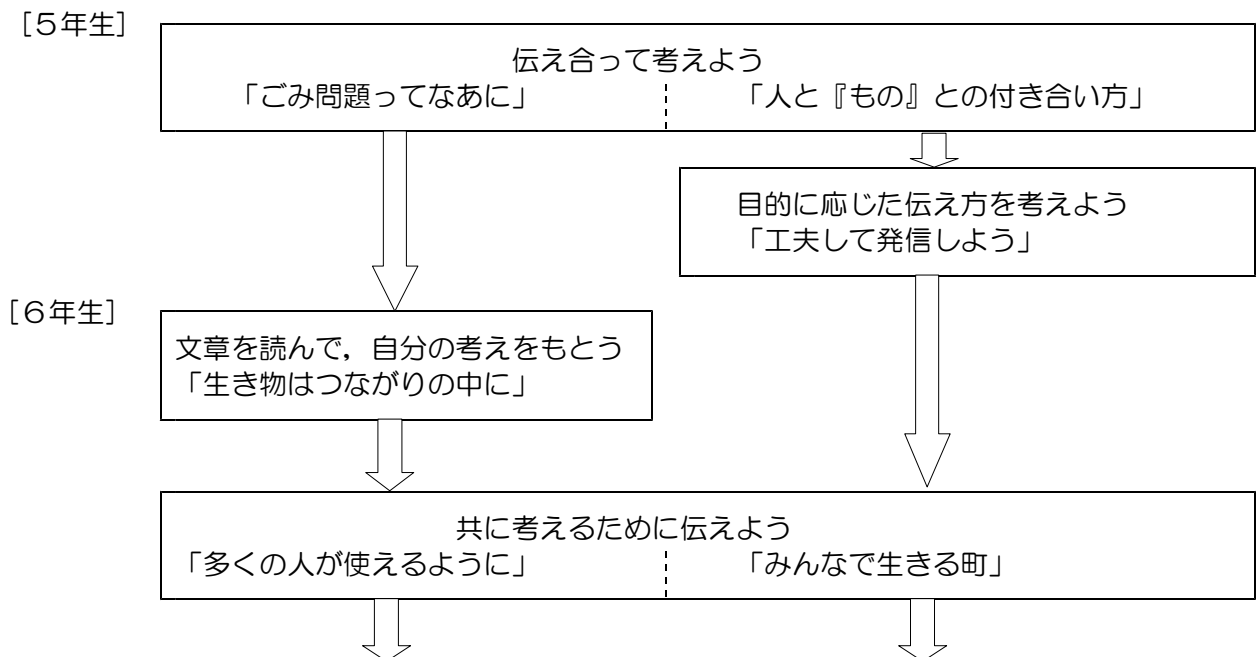
ここでの学習は、中学校での読むこと「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること」へと発展していく。

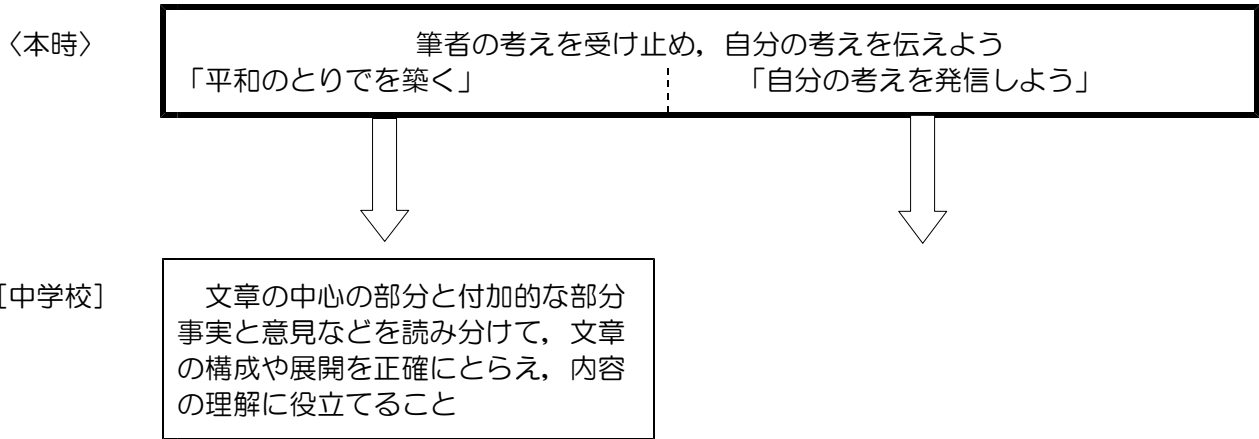
(2) 単元の系統

単元の系統は以下の通りである。

① 事実と意見を区別しながら読む学習単元の系統

② 自分の考えを伝えるために必要な材料を集め、まとめたり自分の意見を発信したりする学習単元の系統





3 児童の実態と考察

本学級の児童の実態は以下の通りである。(国語についてのアンケートより)

【調査日時：平成22年10月28日 調査人数30人 調査方法：質問紙法】

【I 国語に関する意識調査】

(1) 次の国語の学習の中で、あてはまるものに○をつけましょう。	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
ア 声を出して教科書や本を読むこと	9人	12人	7人	2人
イ 主人公や作者の気持ちを読み取ること	7人	14人	6人	3人
ウ 説明文で新しいことを学習すること	5人	16人	8人	1人
エ 静かに読書すること	19人	6人	3人	2人
オ 自分の考えを発表すること	8人	12人	6人	4人
カ 調べたことをまとめること	7人	16人	4人	3人
キ その他	作文を書くこと、漢字、書写、読書発表会(各1人)			

① 「あまり楽しくない」「楽しくない」に○をつけた人は、なぜか理由も教えてください。

- ア みんなのペースで読むのが苦手(1人)
- イ 主人公や作者の気持ちを読み取るのが苦手(2人)
難しくて頭の中がごちゃごちゃになる。(1人)
- ウ 説明文で新しいことを習うのが難しい(1人)
読み取りが難しい(1人)
- エ 静かに読むのが苦手(1人)
- オ 大きな声で発表するのが苦手(2人)
自分の考えに自信がないから(1人)
- カ みんなが先に進み、自分だけが進まないのがおもしろくないから(1人)
- ア～カ 面倒くさいから(2人)、国語が嫌いだから(1人)、得意じゃないから(1人)、

(2) あなたは読書が好きですか。理由も書いてください。

ア 好き(22人) イ どちらでもない(7人) ウ きらい(1人)

<理由> (回答が多かった順)

- ア いろいろな展開がありおもしろい、本が好きだから、本の世界に入れる(各3人)
勉強になる、落ち着ける、主人公になったような気がする(各2人)
楽しくて止まらない、想像が強まり漢字も覚えられる、いろいろな世界へ行ける
いろいろな想像できる、泣ける、特になし(各1人)
- イ おもしろい時とおもしろくない時がある(4人)、好きな本と嫌いな本がある(2人)
マンガと小説は好きだから(1人)
- ウ 面倒くさい(1人)

(3) あなたは本で調べることが好きですか。理由も書いてください。		
ア 好き(18人)	イ どちらでもない(8人)	ウ 嫌い(4人)
<理由> (回答が多かった順) ア 今まで分からなかったことが分かるから(6人), すぐに調べられる, 勉強になる(各2人) 正確に情報を知ることができる, 分かりやすい, 自分で本が探せる, ゆっくり調べられる, 心が落ち着く, 知らないことが多いから, ノートにきれいにまとめた時気持ちが良い(各1人) イ 本よりもインターネットの方がよい場合もある, 難しい時と楽しい時がある(各2人) 調べることを絞り出すのが苦手, 載っていないものがある, 載っていないと他のものも探さないとい けない, 本で調べるのがあまり好きじゃない(各1人) ウ 調べるのが嫌いだから(2人), あまり載っていないから, 面倒くさい, 探すのが大変(各1人)		

(4) 今までの国語の学習で好きなものは何ですか。下からえらんで, 5つ丸をつけましょう。		
物語(65) 「三つのお願い」(13) 「カレーライス」(10) 「ごんぎつね」(9) 「新しい友達」(2) 「大造じいさんとガン」(8) 「白いぼうし」(8) 「森へ」(2) 「わらぐつの中の神様」(4) 「やまなし」(9)	説明(30) 「『かむ』ことのか」(9) 「サクラソウとトラマルハナバチ」(4) 「千年の釘にいとむ」(10) 「生き物はつながりの中に」(2) 「アップとルーズで伝える」(5)	書く(36) 「ガイドブックを作ろう」(22) 「新聞記者になろう」(6) 「みんなで生きる町」(8) 詩(18) 「船・りんご」(17) 「春のうた」(1)

【II 単元に関する調査】

(1) 原爆ドームを知っているか。	
ア 知っている(25)	イ 知らない(5)

(2) 戦争からイメージするものは, どんなことですか。(回答の多かった順)
・恐ろしい・怖い(12人), 死(6人), 悲惨(3人), 苦しみ(3人), 原爆(3人), 叫び声・泣き声(2人), 平和でない(2人), 悲しい(2人), 犠牲が大きい, むごたらしい, 絶対してはいけないこと, 空襲, かわいそう, 火事, 人々の考え方をおかしくする, 殺し合い, ポロポロ, 鉄砲(各1人)

(3) 知っている世界遺産を書きなさい。
屋久島(縄文杉)(17人), 原爆ドーム(12人), 白神山地(8人), 厳島神社, 知床(各6人), 法隆寺, 姫路城, 白川郷(各5人) 日光東照宮, 京都の社寺(3人), 首里城, 石見銀山, ピラミッド, マチャピチュ, グランドキャニオン, モアイ像, 万里の長城, バチカン, ルーヴル美術館, エッフェル塔, ピサの斜塔, ハワイの火山, マヤ文明, ベルサイユ宮殿, アンコールワット, アマミノクロウサギ

【III 学習方法に関する調査】

(1) 次の言葉の意味が分かりますか。	分かる	だいたい分かる	あまり分からない	分からない
ア 要旨	15人	11人	2人	2人
イ 要点	16人	10人	2人	2人
ウ いましめる	7人	10人	9人	4人
エ むごたらしい	2人	10人	8人	10人
オ 惨害	4人	8人	13人	5人

① ア～オの言葉の正しいつかい方に○を付けましょう。

- ア 要旨
 (26) 先生の話のようしをまとめる。
 (2) 先生はようしも心もすばらしい人だ。
 (2) 作文ようしを使って文章を書く。

- イ 要点
 (0) 氷が溶け始めるのはようてんである。
 (30) 話のようてんを書き取る。
 (0) あの人の性格はようてんきだ。
- ウ いましめる(戒める)
 (0) 後ろのドアをいましめる。
 (6) 釣った魚をいましめる。
 (24) 弱い者をいじめてはだめだといましめる。
- エ むごたらしい
 (11) お金をむごたらしく使う。
 (10) OOさんはむごたらしい最期をとげる。
 (9) あの人が百点を取るのはむごたらしい。
- オ 惨害(さんがい)
 (21) 飛行機の墜落事故は痛ましいさんがいであった。
 (6) 魚の骨のさんがいが残る。
 (3) あまり遅くならないうちにさんがいした。

2) 説明文を読むときにどんなことに気をつけて読むといいと思いますか。

キーワードに注目、筆者の言いたいことに注目して(各5人)、要点に気をつけて読む(4人)、線を引ながら読む、しっかり読む(各3人)、まとめの段落に注目して読む、要旨をとらえながら読む(各2人)、指示語に気をつける、段落に分けて読む、自分の考えと重ねて読む、段落後のと変化に気をつけて読む、話題の提示に気をつけて読む、間違えて読まない、大事なところを読む、句読点(各1人)

(3) 次の学習方法の中で、あてはまるものに○をつけましょう。	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
ア 一人学習	7人	12人	6人	5人
イ ペア学習(隣の人と一緒に学習)	15人	12人	2人	1人
ウ グループ学習	23人	7人	0人	0人
エ 全体(一斉学習)	13人	14人	1人	2人

① 「あまり楽しくない」「楽しくない」に○をつけた人は、なぜか理由も教えてください。

- ア 一人では不安で周りの考えが気になる(3人)
 他の人の意見が聞きたいから(2人)
 面倒くさい(1人)
 自分だけの判断では間違っているかもしれないから(1人)
 一人だと時間がかかる(1人)
- イ 自分の言いたいことが言えなくなる(1人)
 たくさんの人数の方が分かりやすいから(1人)
- エ 自分の言いたいことが言えなくなる(1人)

【Ⅰ 国語に関する意識調査】から

本学級の児童の国語への意識は、「とても楽しい」「楽しい」と感じている児童が約7割である。特に静かに読書することを好む児童が多く、学級でも時間を見つけて読書に親しんでいる姿が見られる。それに対して、声を出して教科書や本を読むことは、学級の3分の1程度の児童が「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えており、全体の場で言葉を発することに抵抗を感じる児童が多い。自分の考えに自信がないために発表できない児童が多いようなので、全体の場で発表する前に、ペアやグループで確認する場を確保したい。また、調べ学習においては、調べること自体が難しいと関している児童へ、本の探し方や調べたいことの見つけ方を丁寧に指導していきたい。

【Ⅱ 単元に関する調査】から

本学級の児童は、「戦争」という言葉に対して、これまでの学習や見聞きしたことから「恐怖、死、悲惨」など負のイメージを強くもっている。また、日本の関係する戦争や原子爆弾の投下された場所や日時については、ニュース番組や戦争を題材として映画、社会科の学習などをもとに、ほとんどの児童が知っている。しかし、戦争の詳細や被爆など具体的事実についてはよく知らない児童が多い。世界遺産については、これまでの社会科や理科の単元で「環境問題」「自然保護」等について、関連した図書やインターネット情報を活用した調べ学習をしてきているため、いくつか名称は知っている。ただ、あやふやな情

報を覚えていたり、地図上での位置や具体的な内容が分からなかったりと、詳しいことについては知らない児童も多い。

【Ⅲ 学習方法に関する調査】から

本学級の児童は、説明文を読み解く重要な用語の意味をしっかりと理解している。しかし、「むごたらしい」「惨害」などの戦争の悲惨さを表す言葉の意味を何となく理解していたり、理解しているつもりになっていたりする児童も多いので、国語辞典を活用して言葉の意味をおさえた上で、平和について考えていくことができるようにしたい。

説明文を読む際に、キーセンテンスや接続語、要点に気をつけて読むことが大切であることが分かっている児童が多い。しかし、漠然と大事なことを読む、間違えて読まないなど、説明文を読み解く方法が身に付いていない児童がいる現状がある。全文を読み取るときには、指示語・文末表現・年号・原爆ドームに対する筆者の呼び方等に気を付けながらまとめることのできるワークシートを工夫し、詳しく読み取っていかせたい。

また、筆者の述べたいことに関しては、一度個人で「自分の読み」としてまとめさせ、本学級の児童のほとんどが好んでいるグループ学習を多めに設定し、友達間で交流して、助言・賞賛し合い、満足感を味わえるようにしていきたい。

4 指導上の留意点

本単元は複合単元となっており、「平和のとりでを築く」の学習を通して筆者の論の展開を理解することが「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」の書く活動の基礎となっている。この点を踏まえ、指導に当たっては以下のことに留意して学習を進めていきたい。

「つかむ・見通す」段階では、1学期に学習した教材「生きものはつながりの中に」を説明的文章の学び方を復習する教材として再度取り扱い、文章構成のとらえ方や要旨のまとめ方、意見文の書き方について振り返る。そして、それを本単元に生かすことができるように、要点を整理した物を教室内に掲示する。また、戦争や世界遺産に関する関連図書を置き、教材文との平行読書をさせたり、参考にしよう助言したりすることにより、自分の考えをまとめる参考にできるようにする。

「調べる」段階では、原爆ドームの写真を児童に見せ、どんな印象を受けるか感想を述べた後、この原爆ドームに対する筆者の思いが書かれた1段落目を読み取る。その際、これまでの説明文教材でよく出ていた「問いかけ」「呼びかけ」が本教材にはないことに気付かせ、そのうえで筆者が何について述べようとしているのかしっかりと把握する。同時に、「読みの課題」を設定し、文章を読み進めていく際の大きな柱として意識付けさせる。全文を読み取るときには、指示語・文末表現・年号・原爆ドームに対する筆者の呼び方等に気を付けながらまとめることのできるワークシートを工夫し、詳しく読み取っていく。常に「読みの課題」を意識し、筆者の述べたいことは何なのか、自分の考えをもつことができるようにする。筆者の述べたいことに関しては、一度個人で「自分の読み」としてまとめさせ、その後全体でポイントを振り返った後、もう一度まとめさせる。

「深める」段階では、問題意識を高めるために、イラク戦争などを例に挙げてイラクの子どもたちの状況を知らせることで、平和について児童がもっと知りたいこと・感じたこと・疑問に思うことを出させ、具体的な課題を決める。その後、自分が一番伝えたいことを「仮の要旨」としてまとめ、説得力をもたせるような材料・情報を収集する。その際、児童が活用できそうな図書資料・インターネットのホームページなどを把握しておき、活動が効率的になるよう配慮する。集めた材料・情報をもとに、「仮の要旨」から「確定した要旨」へとまとめ直す。ここでは、「平和のとりでを築く」で使われていた表現方法（文末表現や接続語など）を思い出させ、読者が分かりやすく、効果的な文章構成を組み立てさせる。書きまとめた文章は友達間で交流して、助言・賞賛し合い、満足感を味わえるようにする。

「振り返る・生かす」段階では、振り返りカードに自己評価をさせ、本単元の活動を振り返らせるとともに、今回の活動が、普段人と話すときや文章を読むとき・書くときなど、誰かと伝え合うときにはいつも生きてくることを意識させる。

5 単元の目標

- 筆者の考えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとする。 [国語への関心・意欲・態度]
- 調べたことを友達に伝え、友達の考えを聞きながら自分の考えを深めることができる。 [話すこと・聞くこと]
- 自分の考えを明確にして、書く材料を収集・選択したり、事実と意見を区別して書いたりすることができる。 [書くこと]
- 筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかを明確にしながらかき読むことができる。 [読むこと]

○ 文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考えたり、考えの中心となる文の置き方、意見と事実の書き分け方について理解することができる。 [言語事項]

6 指導計画（全16時間）

過程	時数	主な学習活動	指導上の留意点	評価 〔方法〕
つかむ・見通す	1 2	<p>■学習の見通しをもつ。</p> <p>① 説明的文章の学習内容と学び方を想起する。</p> <p>② 全文を読み、難語句を調べ、初発の感想を書く。</p>	<p>○ 全体に対して</p> <p>☆ 分からない児童に対して</p> <p>◎ 終わった児童に対して</p> <p>○ 「生き物はつながりの中に」を通して、説明文の学習方法・内容を振り返り、本単元の学習に生かせるようにする。</p> <p>☆ 難語句に鉛筆でサイドラインを引かせ辞書で調べさせる。</p>	<p>【関】 説明文の学習方法を理解することができる。 [机間指導・ワークシート]</p> <p>【言】 文章を正しく読み、難語句を調べることができる。 [机間指導・ワークシート]</p>
調べ	3 4 5 6 7 8	<p>■「平和のとりでを築く」を読み、筆者の伝えたいことを考える。</p> <p>① 題名と第一段落から学習課題を設定する。 学習課題を決め、学習計画を立てよう。</p> <p>② 形式段落をまとまりに分け、文章構成をとらえる。 文章をまとまりにわけ、小見出しをつけよう。</p> <p>③ 「原爆ドーム」がたどった歴史について調べる。(2～8段落) なぜ、産業奨励館だけが保存され、原爆ドームという名前をつけられたのだろう。</p> <p>④ 原爆ドームが世界遺産になるまでの歴史を調べる。(9～11段落) なぜ、規模が小さい上に歴史も浅い原爆ドームが世界遺産になったのだろう。</p> <p>⑤ 原爆ドームの歴史をまとめる。 原爆ドームの歴史を年表にまとめよう。</p> <p>⑥ まとめの段落の要点を読み取る。 まとめの段落を読み取り、要旨をまとめよう。</p>	<p>○ 題名にあえて「とりで」という言葉を使っている点に着目させる。</p> <p>☆ 筆者の思いが感じられるところにサイドラインを引かせる。</p> <p>○ 形式段落の中の、重要な文や言葉にサイドラインを引いて考えさせる。</p> <p>☆ 繰り返し出ている言葉に着目させる。</p> <p>◎ 体言止めでまとめさせる。</p> <p>○ 2～8段落の要点をまとめ考えさせる。</p> <p>☆ 大切なところにサイドラインを引かせたり、手引きを参考にさせたりする。</p> <p>◎ 発表の仕方や音読の仕方を工夫させる。</p> <p>○ 9～11段落の要点をまとめ、考えさせる。</p> <p>☆ 世界の人々の願いに着目させる。</p> <p>◎ 発表の仕方や音読の仕方を工夫させる。</p> <p>☆ ポイントになる事柄を板書し、説明する。</p> <p>◎ 時間の流れだけでなく、原爆ドームを思う人の広がりにも気づかせる。</p> <p>☆ 文末の表現・原爆ドームの表記の仕方・題名に着目させる。</p> <p>◎ 根拠を明らかにして発表できるように練習させる。音読の仕方を工夫させる。</p>	<p>【読】 題名と第1段落から、課題意識をもつことができる。 [机間指導・ワークシート]</p> <p>【読】 まとまりに分け、小見出しをつけることができる。 [机間指導・ワークシート]</p> <p>【読】 要点をまとめ、叙述に即して課題を解決することができる。 [机間指導・ワークシート]</p> <p>【読】 要点をまとめ、叙述に即して課題を解決することができる。 [机間指導・ワークシート]</p> <p>【読】 具体的事例について、事実や時間の流れをおさえることができる。 [机間指導・ワークシート]</p> <p>【読】 まとめの段落に着目し、叙述を丁寧に読み取りながら、根拠を明らかにしてまとめることができる。 [机間指導・ワークシート]</p>

	9	⑦ 筆者の伝えたいことを読み確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 筆者は、私たちに何を伝えたいのか、11～13段落を手がかりにして具体的に書きあらわそう。 </div>	○ 前時の活動を振り返らせる。 ☆ 読み確かめる視点の書かれている段落を告げる。 ◎ 抜き出されている言葉以外に、付け足した方がよい言葉がないか考え出せる。	【読・書】 叙述を明らかにして、筆者の伝えたいことについて書きまとめることができる。 [机間指導・ワークシート]
	10	⑧ 筆者の願いをもとに、自分の意見をまとめる。	○ 要旨を振り返らせる。 ☆ 意見を書く視点を与える。	【書】 筆者の願いをもとに、自分の考えをまとめることができる。 [机間指導・ワークシート]
広 げ る	11	■自分の考えを発信する。 ① 「何のために」「だれに」「どのように」発信するかテーマを決める。	☆ 活用できそうな図書資料やインターネットのホームページを紹介する。 ◎ 文末表現や構成に注意して、まとめることができるようにする。	【書】 自分の考えを発信するための計画を立てることができる。 [机間指導・ワークシート]
	12	② 自分の考えを「仮の要旨」としてまとめ、情報を収集する。		【書】 自分の要旨に説得力をもたせるために必要な材料を集めている。 [観察・ワークシート]
	13	③ 収集した情報をもとにして、「仮の要旨」を見直し、「確定した要旨」を書く。	○ まとまりごとに見出しをつけ、効果的な組み立てを考えていくようにする。	
	14	④ 自分の考えを文章にまとめたり、推敲したりする。	○ 書き出しや文末表現にも気をつけさせる。また、友達同士で交流して、助言し合えるようにする。	【書】 材料を選択し、事象と感想、意見を区別しながら意見を書くことができる。 [観察・自己評価カード]
	15	⑤ 書きまとめたものを発信する。		
振 り 返 る ・ 生 か す	16	■学習のまとめをする。 ① 振り返りカードに自己評価する。 ② 自己評価したものをもとに、情報の発信や受信について話し合う。	○ 振り返りカードを配付し、単元全体の学習について自己評価させる。	【関】 自分の学習に対して達成感、満足感を感じたり、学習した意味を見いだしたりしている。 [観察・発言・ワークシート]

7 本 時

(1) 目 標

- 文章構成や中心となる言葉に着目して、筆者が伝えたいことについて読み取ることができる。
 [読むこと] [書くこと]

(2) 本時の指導に当たって

本時までには児童は、一つ目の課題「原爆ドームがたどってきた年月」について読み取り、二つ目の課題「筆者は何を伝えたいのか」に対する自分の読みをまとめる活動をしている。

本時においては、「つかむ・見通す」段階で、要旨となる文の根拠を復習させ、文章を読み深めさせたい。

「調べる・深める」段階では、形式段落⑬の「原爆ドームはそれを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ」という文の中の重要単語について、その意味にあたる文章を抜き出し、筆者の伝えたいことを確かめさせる。一人学びで自信がもてない児童のために、グループでお互いの意見を交流する場を設定することで、友達の読みを参考に、自分の読みを加筆・修正させ、読みの深まりを

感させたい。

「振り返る・生かす」段階では、筆者が伝えたいことを受け止められたことを確認し、次時は筆者の願いをもとに、自分の意見をまとめることを伝える。

(3) 本時の実際 (9/16)

過程	主な学習活動	時間(分)	指導上の留意点*〔評価〕・(方法) ○全体 ☆分からない児童 ◎終わった児童	準備
つかむ・見通す	1 前場面の学習を振り返り、学習課題をつかむ。 2 本時の学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 筆者は、私たちに何を伝えたかったのか、文章中の言葉を手がかりにして具体的に書き表そう。 </div> 3 学習の進め方を確かめる。 ① 11・12・13段落の音読をする。 ② 一人で考える。 ③ グループ毎に話し合う。 ④ 自分の意見を修正し発表する。	8	○ 前時までの学習を、ワークシートや写真提示資料を使って振り返らせる。 ○ 要旨となる文の根拠を復習させる。 ○ 学習の進め方を確認する際、流れを提示し見通すことができるようにする。	ワークシート 写真提示資料 短冊 学習の流れを示した紙
調べる・深める	4 ⑬段落の「原爆ドームはそれを見る人の心に平和のとりでを築くための世界遺産なのだ」という文の中の重要単語について、その意味にあたる文章を抜き出し、筆者の伝えたいことを確かめる。 ① 音読する。 ② 一人で考える。 それ＝原爆ドーム 人＝世界の人々 平和＝核兵器を二度と使わない、核兵器は不必要、平和を守る とりで＝強い気持ち ③ グループ毎に話し合う。 ④ 自分の意見を修正し、発表する。	3 8 6 7	☆ どの段落に着目したらよいか支援する。 ☆ 文章を読み深めることを苦手としている児童が、とりでをイメージしやすいように、とりでの絵を掲示する。 ※ すらすらと音読することができたか。(観察) ◎ 発表話形に注意して言えるよう支援する。 ○ 根拠を明らかにしながら話すことができるように、「私は～は～だと思えます。理由は、○段落に具体的に書かれているからです。」という話し方の定着を図る。 ◎ 文章の言葉の奥にある、筆者の思いにも気付かせる。 ○ 友達の読みを参考に、自分の読みを加筆・修正させ、読みの深まりを実感させる。 ※ 具体的に書き表している箇所を抜き出すことができたか。 (机間指導・ワークシート) ※ 根拠を明らかにしながら話すことができていますか。(机間指導)	ワークシート ワークシート

	<p>5 全員で考え、学習のまとめをする。</p> <p>原爆ドームは、後生まで、原爆ドームを見る世界中の人々の心に、核兵器を二度と使わない、むしろ核兵器は不必要なものであること、そして平和を守っていかうという強い気持ちを築くための世界の遺産なのだ。</p>	<p>8</p> <p>○ 言葉を補いながら、自分なりにまとめさせる。</p> <p>○ 自分なりにまとめたことを、発表させる。</p> <p>※ 本時の学習について理解し、すらすら書くことができているか。(観察)</p>	<p>短冊</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習について話し合う。</p>	<p>5</p> <p>○ 本時の学習を振り返らせ、次時の学習への意欲を持たせる。</p>	<p>学習計画表 ワークシート</p>

8 板書計画

